（８８）群馬県下仁田町の西ノ牧鉱山跡

参考文献（１）、（２）を手引きに、真っ赤な鶏冠石の採集を目指して、西ノ牧鉱山跡の探査に出かけた。両文献共に、現地の案内図が掲載されている。探査の下準備として国土地理院の現在の地形図と、Ｙａｈｏｏのホームページで紹介している地図及び写真の資料で現地の現状を調べた。参考文献の出版年は４０年前、３０年前である。実際の現地の探査はそれより遡っているはずである。参考文献の案内図と、現在の地形図を比較対照してみると、一致していそうで、一致していないのである。鉱山のある沢は両方の文献とも真北に延びている沢である。が、市野萱、東平には、北西に延びている谷はあるが、真北に延びている谷はないのである。悩んだが、文献の案内図が不正確であるという判断を下して、北西に延びている沢を探査することにした。その結果、３回目の探査行で、ようやく鉱山跡と断定できる場所を探し当てることができた。両文献の谷筋の案内図は、現在では殆ど当てにならない。が、結果として、西ノ牧鉱山跡を確定してみると、両文献の案内図は、あながち間違ってはいないようにも見えることは見える。

鉱山跡への経路は次の通りである。上信越道を下仁田ＩＣで降り、２５４号線で下仁田町中心に向かっていく。２５４号を西へ西へと進んでいく。左に道平川ダムがある当たりから、道路の左を注意していると、「荒船の湯」の看板がある。この少し先で、幹線から左側の側道に下りていく。１００ｍ～２００ｍ進んで、民家の間を右折し、狭い林道に入っていく。頭の上に先ほどの幹線道路の陸橋が架かっている。狭い林道を登っていくと、右折から５００ｍ当たりで、前方に大きな砂防ダムが見える。林道は、この砂防ダムの前で、大きく右に曲がっている。こちらに入っていってはダメである。砂防ダムが見えた当たりで、進んできた林道の左側に、分岐した林道が延びている。この林道に入っていく。左折してから３００ｍ当たりの沢の向こう側に、鉱山跡がある。車も数台程度ならば、この付近に駐車できよう。

探査日　　２０１１年　６月、その他

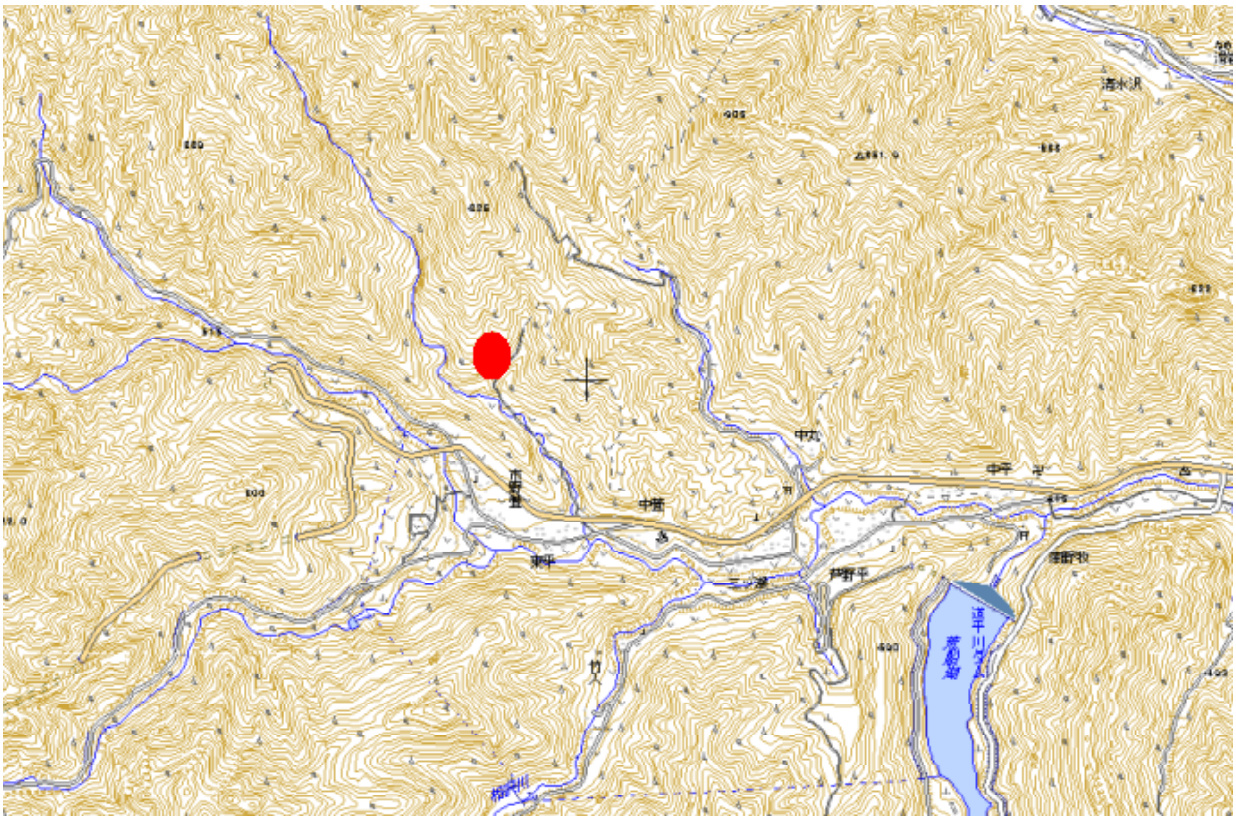

図１　国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。赤丸の当たりが、鉱山跡。

国土地理院の最新の地形図は、この沢への途中までしか合っていない。砂防ダムの設置によって、だいぶ地形が変ったようである。

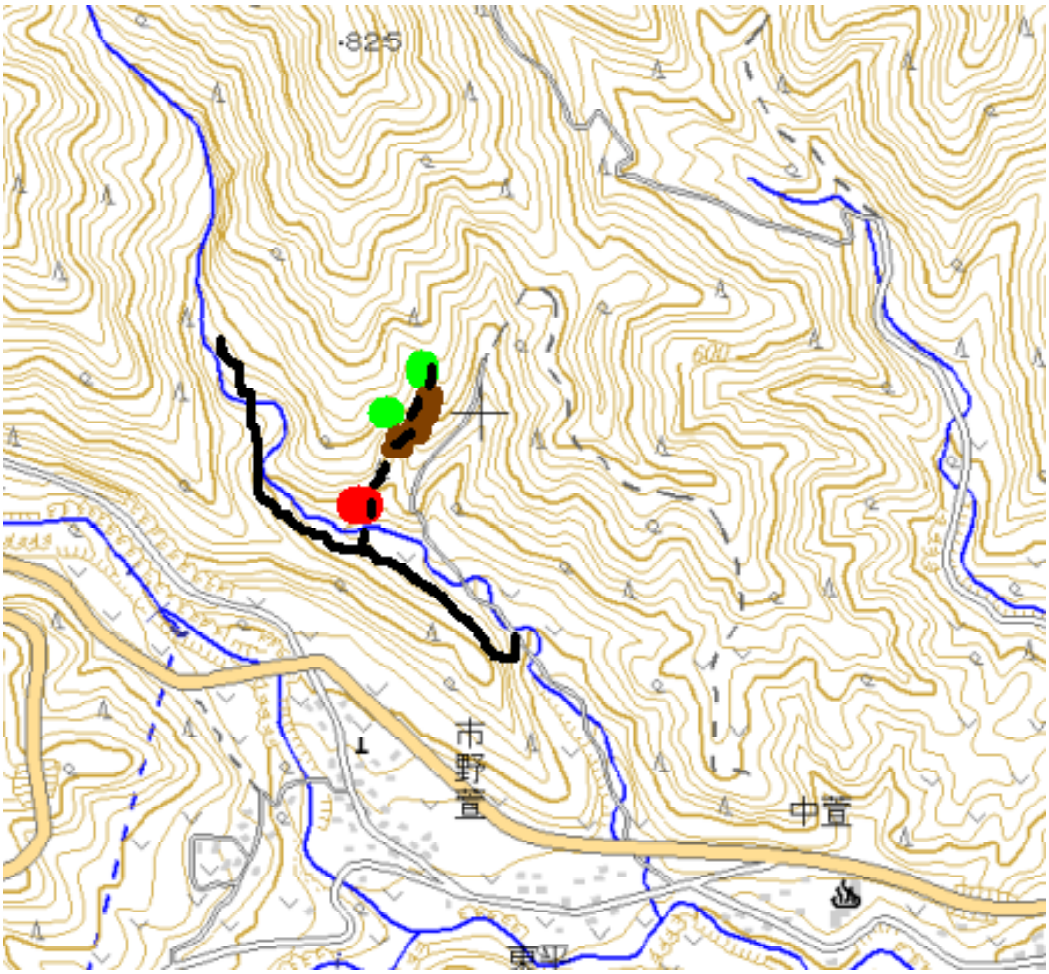

図２　図１の拡大図。黒線が現在の林道である。黒破線が著者の確認した鉱山跡への細い道である。赤丸が鉱山施設跡。黄緑丸が坑口跡。茶色がズリ跡。

鉱山跡写真

写真１　前方に真っ直ぐ延びているのが２５４号線である。荒船の湯の少し先に、左に降りていく側道がある。

写真２　林道を登っていくと、前方に大きな砂防ダムが見える。木々の葉で隠れているかも知れない。林道はダムの前で、大きく右に曲がっている。そちらに行かないで、この写真で見れるように、左側に分岐した林道が延びているので、そちらに進む。

写真３　左折してから、３００m当たり先の所である。沢は右下にある。杉林の中を沢に降りる。と、別の小さい砂防ダムの上に出る。

写真４　沢に立ち、上流に向かって右側の斜面中に、石垣組の跡がある。鉱山施設跡である。このあたりの沢をじっくり探すと、小さいながら赤色、黄色の微細鉱物を見つけることができる。赤は鶏冠石、黄は石黄である。鶏冠石の産地跡に間違いはない。

写真５　最上部にあった坑口跡。入口はコンクリートでしっかりと閉塞されている。この下はズリ跡である。じっくり探せば、良い標本を採集できよう。

採集鉱物写真

写真６　採集した標本の１つ。標本の横幅約７ｃｍ母岩（安山岩？　流紋岩？）にこびり付いた鶏冠石（赤色部）と石黄（黄色部）。

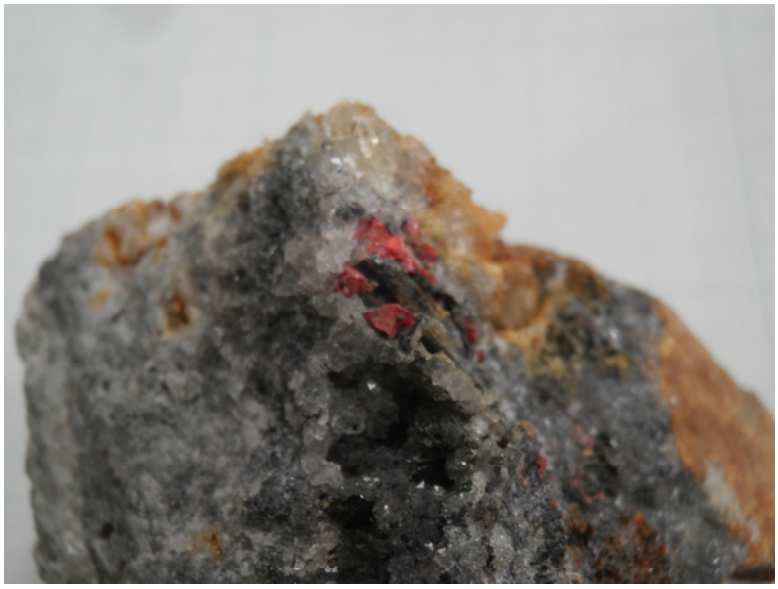

写真７　中央に深紅の結晶の欠片が幾つかある。鶏冠石の結晶である。大きさ１mm～２mmほど。周りには微少水晶以外に、銀色の鱗片状の輝安鉱も付いていた。輝安鉱であることは、本校のＥＳＣＡで確認済。

参考文献

（１）「鉱物採集の旅　関東地方とその周辺」、桜井欽一＋加藤昭、築地書館、１９７２年。
（２）「鉱物採集フィールドガイド」草下英明、草思社、１９８２年。